

## 式辞（定時制）

寒さが少しずつ和らぎ、人吉・球磨の美しい自然に春の訪れを感じるこの佳き日に、保護者の皆様の御臨席を賜り、ここに令和三年度熊本県立人吉高等学校定時制課程第七十三回卒業証書授与式を挙行できますことは、教職員一同、大きな喜びとするところでございます。

しかしながら、新型コロナウイルス感染症拡大防止のために、式の内容を一部変更せざるを得なかったことにつきましては、卒業生の皆さん、保護者の皆様にどうぞ御理解いただきたいと思っております。

ただ今、卒業証書を手にした七名の卒業生の皆さん、卒業おめでとうでございます。本校を巣立つ皆さんの凛々しい姿を前にして、教職員一同を代表して祝意を表します。また、これまで皆さんを支え励ましてこられた保護者の皆様におかれましては、本日、この卒業の日を迎えられ喜びも一入のことと存じます。

皆さんは高校生活の後半を、新型コロナウイルス感染症という未曾有の厄災の中、様々な制限を受けながら過ごすことになりました。しかし、今年度定時制では、二年ぶりに開催された定通総体の卓球競技において全国大会出場、無観客での開催となった人定祭では各クラブの発表をライブ配信するなど、このような状況の中でも、人定の皆が協力して知恵を出し合い、工夫をしながら新しいことにも次々に挑戦してきました。中でも、総合的な学習／探究の時間（人定 MyRevo プロジェクト）では、地元人吉の災害からの復旧・復興に向け、ICTを活用した「UD観光マップ」の作成に取り組みました。地域の方々に話を聞きながら、皆さんの感性を生かし、他にはない素晴らしい取組となっています。ICT特定推進校として取り組んだこのマップは、これから多くの方々に御覧いただけたらと思います。そして、この活動は後輩たちに引き継がれて人吉球磨に元気を与えるようなものになると信じています。

さて、先日、北京で冬のオリンピックで開催されました。そのなかで、メダルには届かなかったものの渾身の演技を見せたフィギュアスケートの羽生結弦選手は、多くの人に感動を与えたことは記憶に新しいと思っております。羽生選手は高校一年生の時に東日本大震災を経験し、厳しい状況の中、これまで素晴らしい演技で日本中、世界中の人に感動を与え、そして、被災した多くの人々にも勇気と元気を与えてきました。三連覇がかかる今回のオリンピックでは、重圧の中、前人未到の四回転半に挑み、世界のスケーターたちに新たな道筋を示しました。羽生選手は、現在のコロナの状況を自分自身のジャンプに重ねて表現し、「それでも進んで行かなければいけないし、立ち向かっていかなければいけない、挑戦しながら最大の対策を練っていく必要がある。」と述べています。どのような状況であっても、自分に誇れる挑戦をし、全てにおいて今できるベストを尽くすという、

その姿勢と勇気は多くの人に感動を与えました。

定時制は、「一人一人を大切にし、可能性を広げる学びの場」であり、本校の教育綱領「礼節・勤労・進取」は「礼儀を大切にし、勤労の精神を持って、何事にも進んで取り組むこと」という意味です。卒業後は人吉・球磨の地を離れ、新しい環境での生活が始まる人もいます。それぞれがこの教育綱領の精神を体現できる一人の人間として、これまでに培った力を十分に発揮してください。

皆さんがこれから生きる時代は、社会の在り方が劇的に変わる「Society5.0」が到来しようとしています。新型コロナウイルスの感染拡大など、先行き不透明な「予測困難な時代」でもあります。その変化の速度や姿は、誰にも予測することはできません。しかし、たとえ予期せぬ出来事が起こっても、人定で過ごし、人定で学んだ事を思い出してください。そして、目の前の事に真摯に実直に対峙して欲しいと思います。人定での生活の中で、一人一人を大切にし、周囲の仲間を思いやる心を育ててきた皆さんなら、必ずこれからの社会の中で、周囲と協力して社会に貢献できる人材となれるはずです。人吉高校定時制卒業生として自信と誇りを持ち、自らの可能性への挑戦を続けてほしいと願います。

最後になりましたが、保護者の皆様に一言お祝い申し上げます。改めまして、お子様の御卒業、誠におめでとうございませう。心よりお祝い申し上げますとともに、これまでの本校教育活動に対する御支援と御協力に深く感謝申し上げます。

素晴らしい未来の創り手である、卒業生七名のこれからの活躍を祈念し、式辞といたします。

令和四年三月一日

熊本県立人吉高等学校長 前田 浩志